

## 東京江戸散歩

### その拾四 一佃・月島・築地④

写真・文 七海邦夫



左・・・海軍兵学校寮  
上・・・「もんじゃ焼き」通り  
右上・・・賑わう場外店舗 中央・・・市場の全景  
右下・・・テリ伊東の実家「玉子焼きの丸武」

地下鉄大江戸線築地市場駅A15出口を出て右手に歩くとバスターミナルのような大きな建物がある、築地市場だ。正式名称は東京都中央卸売市場(日曜、祝日休、水は不定休)という敷地面積二十三万平方メートルを誇る巨大市場で、大正十二年(一九二二)日本橋から移転して来たのが始まり。一日およそ三三〇〇トンの額にして二〇億円の魚や野菜が取引される。

早朝を避ければ場内市場も見学出来る。場内にはずし屋などの食事処も多く選ぶのに苦労するほどだ。何処も新鮮さが売りである。行列が出来る仲家(六時三十分)十三時三十分、市場定休日(休)の人気はウニトロ井(二八〇〇円)だ。

市場を一周した所で海幸橋を出て築地場外市場へ。小売りが中心で路地には鮮魚から乾物、精肉、青果、調理道具などを扱う店や食事処などおよそ四百軒がひしめく。買い物を楽しんだ後でオフィス街を歩き、佃方面へ向かう。

国立がんセンター敷地内の海軍兵学校寮跡や日本最初の新劇専門劇場の築地小劇場跡など多くの史跡も残っている。その先に隅田川に面して高さ約二百メートルの聖路加タワー(セントルークスタワー)が立つ。四十七階の展望室(九時二十時)からは築地市場も箱庭のように眺められる。東京湾から富士山にかけての眺めがいい。

月島は明治時代からの埋め立てによって出来た島、地下鉄有楽町線、大江戸線月島駅を出たら「もんじゃ」の西仲通り商店街を覗いてみよう。屋でも何軒が営業しているが、なんと言ってもこの町の本領は夜、西仲通の両側と路地に並ぶ四十〜五十軒のもんじゃ焼きの店先から、ソースの香りがいっぱい流れてくる。結構家族連れも多く、下町の盛り場の雰囲気だ。たっぷり楽しめる。

大正時代の民家が点々と残る町の中を佃三丁目に向かう。狭い路地を覗くと玄關先をふさぐ人である。

としては超長命の八〇才で死ぬまで、考え続けその思想を實踐し、生き様を「仏教」として残した人である。

私は「仏教徒」ではないが(得度していないという意味で)、釈迦を敬う気持ちは一層強い。あなみに、現代日本の仏教といわれる類にはほとんど共感を覚えない。関係者がおいでであれば申し訳ないが、あれらは華式仏教という形容が似合うと思っている。

「宗教分類」的に言えば、古代神道の感覚を基盤に備えている。原始的とか、アニミズム的とか言われてもこれはどうしようもない。その上に、釈迦の「生き様」(「教え」と言っても良い)が

ように植木鉢が並び、二階窓に洗濯物が翻る。晴海運河に出ると海水浴場の碑があり、穏やかで房総半島の眺めが良かったことから文人連が「春」を、小山内薫が「大川畑」を書き、竹久夢二、木下幸太郎、久保田万太郎らが好んで宿泊した。

ガルメススポットとしては、井上(中華そば)又こい家(まぐろどんぶり)龍寿司、大和寿司、もんじゃ近どう本店、おしお和(なごみ)店(もんじゃ)

次回から日本橋・人形町

## 世評・時評

日本の政局も今回の総選挙に民主党が圧倒的勝利したことで、日本にも本格的な政権交代の時代が訪れることになった。

今迄半世紀に及び政権を維持してきた自民党が政策的に行き詰まり国民から批判を受けて総選挙に惨敗し政権を退かなければならないことになったのは当然の結果と云わざるを得ません。

一方今回初めて政権を獲得した民主党にも不安

がないわけでもないが、組閣も終わり各大臣の所信表明を見るかぎり我々国民に知らされなかった事柄がこれからは総て解明され、本当に国民のために分かり易い政治が行われる事が理解される。今まで実現される迄時間を要した問題が早期に解決される期待も持つこと出来るような政治をして貰いたい。そしてマニフェストを誠実に実行し、見直したい政策があればその理由を国民に卒直に説明して貰いたい。

民主党には将来を担

う若手議員たちが沢山いるが、今回の政権交代の責任の重大さを肝に銘じ、一生懸命勉強してもらいたい。また一方自民党も今回の総選挙を機に古い世代から新しい世代に交代するでも新しいから若手議員を中心にした次の国政選挙での巻き返しを期して国民の信頼を取り戻すためにもゼロから出直すべきである。そうしなければ日本の健全な政治体制は出来ないのではないかと思えます。

(かくれみの)

## 毒舌・独言

「世の中の人は老人を見て忌み嫌う。愚かな人は人の死を見てそれを嫌う、本人もいずれ死ぬの...。私も死ぬ人を見て死を忌み嫌っている。私もいずれ死ぬの...。とそこまで考えたとき、若さの奢りのある自分に気がついた。」

これは、釈迦の言葉である。ご存知の通り、釈迦は「生老病死」をどことん考え抜いた人である。王族の子として生まれ二九才で出家し、当時

私は「仏教徒」ではないが(得度していないという意味で)、釈迦を敬う気持ちは一層強い。あなみに、現代日本の仏教といわれる類にはほとんど共感を覚えない。関係者がおいでであれば申し訳ないが、あれらは華式仏教という形容が似合うと思っている。

「宗教分類」的に言えば、古代神道の感覚を基盤に備えている。原始的とか、アニミズム的とか言われてもこれはどうしようもない。その上に、釈迦の「生き様」(「教え」と言っても良い)が

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しております。担当：飯島までお申し出ください。

お願いです

人生の後半、生きることの辛さ、悲しさ、ろくでもなさを味わおう。

(朱夏・続)



小笠原島父島からの引き揚げの記

浮山 清作

私は小笠原島父島からの引き揚げ者です。原因は、太平洋戦争で本土より一足お先の空爆洗礼。引き揚げに至るまでの経緯は次の通りです。

長期にわたる戦況ニュースで、村民の誰もがアメリカ軍による空爆が先か上陸が先か、と懸念していたことは事実です。そんなある日、父島扇村村長が住民を前にして話すのに、戦況は大変のようにだが最後の勝利を願って協力し合い頑張りましょう。司令部から聞いた話だと、前置きをして「アメリカ兵は命を惜しむ国民、航空兵は大学出の若

者が多い。この島を襲って来ても高度何千メートルと言う高さから爆弾を投下し逃げ帰るだけ、島には殆ど当たらないのではないかと思う。命中しても被害僅少」と話しました。

憶われて

島越 直子

知的障害を持つ息子と支え合い乍ら暮す毎日を私は笑の皆さんの中で一番忙しいネエヤにパマヤよと言っていて、自認しています。

夫がいなくなつて二年目に介護事務所の方から薬を教えて頂いたのです。この薬は私にとって心身ともに癒されるどころ。全て自分で処理し、余儀なく身体を動かす生活に

島肌すれすれに急降下し舞い上がるなど操縦の巧さ抜群。海軍航空隊基地も一発で爆破されるし、警戒に当たつていた海軍機(下駄履き)も損傷をうけて二度と飛び立つことが出来ぬ有様でした。

村民そんな話を信じてか意気軒昂。仕事を終えての毎夕、警防回員と愛国婦人会員の数十名が小学校校庭に集まり、敵兵の上陸に備え一人一殺を目標とした竹槍で銃剣術の猛稽古をするのが指導員浮山、当時の村民生活の基本の如く居たが、村民は楽しく生活していました。

サイパン島陥落のニュースが有つた翌日、本土より一足お先の空爆を受けました。見たのと聞いたのでは大違い、敵機は急降下しての爆弾投下、

桃

父を憶ひて

高橋 カウ

桃見れば 父を想ほゆ  
桃食めば まして憶ほゆ

のちのちの子等の為にと  
老いの身に 山拓き

桃植え給う 父を恋しむ  
父逝きて 年は変れど

香ぐわしき甘きかんろの  
桃食めば その味のごと

慈父の恩 身に沁みて  
我は思はむ

若い時とは違った辛さを思うことは多く、一週一度こに通い、温かい雰囲気の中で泳がせて貰っている私です。若さ溢れるスタッフの方々にも何も彼も委ねる気持ちでいます(重いでしょうかゴメンナサイ)。

お仲間の方々とも話し合える時間がまた楽しいものです。

人は優しく、愛が一番強い、と若い時人前で見切つた私自身はどれ程のものなのか、自分を計つてみたい思ひです

寝する有様。(空襲時はトンネル内に避難した)牛が「モーウ」と鳴いた声を聞き、空襲警報のサイレンの鳴り始めと早合点し、避難場所のトンネルに向かつて駆け出した者も有つて「慌て者め」と後で大笑いしたが住民の不安は増すばかり。小笠原島支庁や警察もトンネル内での業務となり、業務停滞甚だしく島伏激

変、軍人軍属以外は島から引き揚げとの指令が出たので、島民と共に引揚げて来た次第です。

子等の為心の財(タカラ)と思いつつ名作贈る  
運るか母校へ  
芙蓉花立菜など  
ふるさとの母校師らむ  
我ならぬに  
(花の種と名作を)

さ庭辺の  
虫の音日毎繁くなり  
いよいよ夏は  
過ぎゆけにけり  
栗ご飯  
供えつ逝きし兄の恩  
しみらに思う今日は命日  
(九月九日)  
今年亦舞台に上がる  
高齢者にして

父の形見の香に匂いけり  
桃の花  
一度見たいと言ひし父  
思い果さず亡き数に入る  
りんごの花とふるさととは



父を憶ひモモを供える...

麻雀

斎藤 重実

私と麻雀の出会いには意外なところでした。二十歳の頃、私は大阪で編み物教室に通っていました。ある時、生徒が私と友達二人だけの日があり、先生に「一度頭数を揃うから麻雀しないか」と誘われ、「スル、スル」と二つ返事で応じたものの、牌の並べ方も知らず、一から教えて貰いました。

来た頃、父が明石に転勤になりました。明石は戦時中暮した所であり思ひ出がなく、嫌でしたが、一人で牌を並べ淋しさを紛らわせていました。

その後結婚し、子育てで長い間麻雀とは縁のない生活でしたが、薬に通所して何日か経つた頃、「麻雀したい方...」と聞かれて、恥かしげもなく手を上げました。

「出来るのですか」と言われ、少しはと答えたものの、出来はサンザンで、(あな)があったら入りかかったです。

それから三年余り、薬で毎週のように車を囲んでいますが一向に上達しません。この間も、もう上がるよ、と教えられる迄気がつかなかったような有様ですが、頭は生きている内に使えと背中を押されて、コリもせずお

俳壇「あおい」

相田美代子

清流に  
木の葉舞い散る  
縁瀬川

泉 貞子  
消えて高まる  
虫の声

屋根走る  
猿の足音鬼胡桃  
鯉除けの

鈴鳴る霧の軽井沢  
赤とんぼ  
代替りせる峠茶屋

天高し  
夫婦円満会話から  
天高し

夫は妻を  
ほめること  
柿を食ふ  
老人を会ふ散歩道

澤 道雄

仲間にに入れて頂き、楽しい時間を過ごしています。今、麻雀は私の生甲斐となっております。

お陰様で、友の会の麻雀大会では、「取りたくても中々取れない!」と言われるブービー賞に輝くことも出来ました。



詩

竹ボテの花  
入交トヨ子

咲き匂ひ  
竹ボテの花  
一夜にして  
おわるはかなさ



薬友の会  
広瀬コーナ-

ハ・九月履活動報告

八月十九日  
第四回麻雀大会(参加  
一・二名)優勝 七海邦  
雄さん



八月二十一日・第十三回カラオケ会(参加十四名)  
八月二十六日・第三回ガ  
ルメの会(参加二十四名)  
九月十八日・第十四回カラオケ会(参加十三名)でした。